

# RDP ログイン保護機能 らく認 2 移行手順

## 1. 事前準備

らく認 2 への移行にあたり、ご利用の認証方式によって事前準備の内容が異なります。

| 認証方式                | 事前準備                |
|---------------------|---------------------|
| ハードウェアトークン          | 不要                  |
| らく認アプリ（OTP またはプッシュ） | 必要（らく認 2 アプリのアクティブ） |

### ■ハードウェアトークンをご利用のお客様

事前作業は不要です。

移行後も引き続き現在ご利用中のハードウェアトークンをご利用いただけます。

### ■らく認アプリをご利用のお客様

移行後、従来のらく認アプリは利用できません。認証にはらく認 2 アプリをご利用いただくため、移行作業前にらく認 2 アプリのアクティブを実施してください。

### 【重要】

移行前にらく認 2 アプリをアクティブしていないユーザーは、移行後に RDP 認証を利用できません。対象ユーザー全員のアクティブを、移行作業前に完了してください。

## 2. らく認 2 アプリのアクティブ手順

### ① らく認 2 管理画面へログイン

以下の URL へアクセスします。

<https://admin2.rakunin.co.jp/welcome>

※管理者のログイン ID およびパスワードは、現在ご利用中のらく認管理画面と同一です。

### ② アクティブ画面を開く

[ユーザー] → [ユーザーリスト] **画面を開き**、「らく認 2 アプリのアクティブ」をクリックします。

### ③ アクティブメールを送信

対象ユーザーを選択し、「メール」をクリックします。

### ④ ユーザーによるアクティブ

対象ユーザーは、**らく認 2 アプリ**をダウンロードし、送信されたメールに記載された QR コードを読み取ってアクティ

ブを実施してください。

アプリのダウンロード方法およびアクティブ手順については、以下の利用者マニュアルをご参照ください。

## らく認 2 ヘルプセンター（モバイルアプリ利用者マニュアル）

<https://docs.rakunin.co.jp/user-mobile>

以上の作業を、**らく認 2 への移行前**に完了してください。

### 3. 移行手順

#### ① インストールフォルダを開く

「Cloudentify RDP」がインストールされている PC で、以下のフォルダを開きます。

C:\Program Files\FeiTian\Cloudentify RDP

※インストール時の設定によって、フォルダの保存先が異なる場合があります。

#### ② 設定ファイルをバックアップする

フォルダ内の「OTPAgentConfig.ini」ファイルをコピーし、バックアップを作成します。



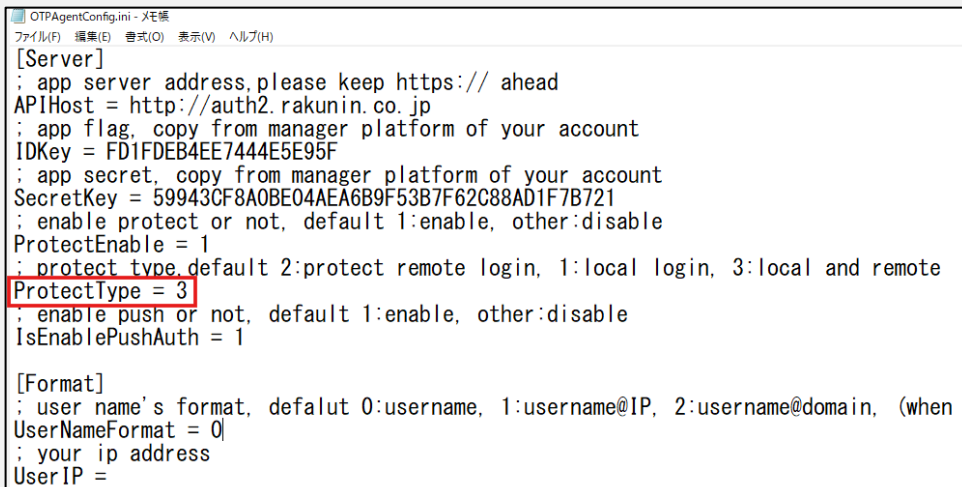
#### ③ 接続先の変更する

「OTPAgentConfig.ini」をテキストエディタで開き、以下の設定に変更します。

【変更前】 APIHost = <https://auth.rakunin.co.jp>

【変更後】 APIHost = **http://auth2.rakunin.co.jp**

### ※「ProtectType = 3」に設定している場合



```
OTPAgentConfig.ini - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
[Server]
; app server address, please keep https:// ahead
APIHost = http://auth2.rakunin.co.jp
; app flag, copy from manager platform of your account
IDKey = FD1FDEB4EE7444E5E95F
; app secret, copy from manager platform of your account
SecretKey = 59943CF8A0BE04AEA6B9F53B7F62C88AD1F7B721
; enable protect or not, default 1:enable, other:disable
ProtectEnable = 1
; protect type, default 2:protect remote login, 1:local login, 3:local and remote
ProtectType = 3
; enable push or not, default 1:enable, other:disable
IsEnablePushAuth = 1

[Format]
; user name's format, default 0:username, 1:username@IP, 2:username@domain, (when
UserNameFormat = 0
; your ip address
UserIP =
```

現在「ProtectType = 3」に設定している場合は、一度「ProtectType = 1」および「ProtectType = 2」に変更し、正常に動作することを確認したうえで、「ProtectType = 3」に変更を行ってください。

移行後に不具合が発生した場合、サーバーへログインできなくなる可能性があります。

そのため、必ず動作確認を実施してから設定を変更してください。

#### ④ 設定を反映する

編集内容を保存後、PC を再起動し、設定を反映します。

※ 保存できない場合、「OTPAgentConfig.ini」をデスクトップ等にコピーして編集し、編集後のファイルを元のフォルダに上書き保存してください。

#### ⑤ 動作確認

RDP ログイン時に認証が正常に行われることを確認してください。

認証が正常に行われることを確認できれば、RDP ログイン保護機能のらく認 2 への移行作業は完了です。